

P-258 月経随伴性気胸の5例(肺嚢胞2)(一般示説27)

著者	大谷 真一, 遠藤 俊輔, 佐藤 幸夫, 長谷川 剛, 手塚 憲志, 齊藤 紀子, 村山 史雄, 塚田 博, 手塚 康裕, 金井 義彦, 蘇原 泰則
雑誌名	日本呼吸器外科学会雑誌
巻	18
号	3
ページ	401
発行年	2004-04-28
権利	日本呼吸器外科学会
URL	http://hdl.handle.net/2241/00134231

P-258 月経随伴性気胸の5例

¹宇都宮社会保険病院 胸部外科, ²自治医科大学 呼吸器外科

大谷 真一^{1,2}, 遠藤 俊輔², 佐藤 幸夫², 長谷川 剛²,
手塚 志志², 齊藤 紀子², 村山 史雄², 塚田 博², 手塚 康裕²,
金井 義彦², 蘇原 泰則²

月経随伴性気胸の5手術例を経験したので報告する。【症例1】32歳女性。月経時に発症した7回目の再発右気胸に対して、1999年3月に胸腔鏡下にブラと横隔膜の小孔を切除した。組織学的に横隔膜に子宮内膜腺および間質を認めた。2000年6月に気胸を再発したため、GnRH誘導体を6ヵ月間投与し、以後再発していない。【症例2】50歳女性。39歳時に子宮筋腫で子宮全摘術を受けた。1999年6月に3回目の再発右気胸に対して、胸腔鏡下にブラと横隔膜の小孔を切除した。組織学的には子宮内膜症の所見は認めなかった。以後気胸は再発していない。

【症例3】44歳女性。2001年1月の月経開始日に発症した右気胸に対して、胸腔鏡下にブラを切除し、横隔膜の小孔を一部切除した。組織学的には子宮内膜症の所見は認めなかった。術後からGnRH誘導体を投与したが、更年期症状が強いため4ヶ月間で中止した。その後も月経のたびに気胸を再発したため、2002年2月に胸腔鏡下壁側胸膜擦過術を施行した。以後気胸は再発していない。【症例4】46歳女性。月経時に繰り返す再発右気胸に対して、2002年7月に胸腔鏡手術を施行した。ブラは認めず、横隔膜の褐色の斑点を焼灼した。以後も月経のたびに息切れが出現している。【症例5】45歳女性。月経時に発症した2回目の再発右気胸に対して、2003年6月に胸腔鏡下にブラと横隔膜の小孔を切除した。組織学的にブラ・肺胸膜・横隔膜に子宮内膜間質を認めた。術後GnRH誘導体を投与し、以後気胸の再発はない。【結語】5例の月経随伴性気胸の全例に右横隔膜の小孔または斑点を認めたが、組織学的に異所性子宮内膜症を証明できたのは2例のみであった。